

属性証明とユースケース例

■ 属性証明とは

属性証明とは、ある人物や組織、あるいはモノや AI が「特定の性質・資格・状態・権限など（＝属性情報）」を持っていることを、信頼できる第三者の保証のもとに証明することです。属性情報の例として、年齢、性別、学歴、口座情報が挙げられます。今回は属性情報を VCs や VPs に記載をして発行や提示を行うユースケースについてご説明します。

■ 属性証明のユースケース

属性証明のユースケースとして、金融機関やチケット販売会社での本人確認の際に属性情報を提示するモデルを紹介します。（図 1）

このモデルでは、複数の銀行が本人確認をした証明情報や残高証明情報を、利用者のスマートフォンに発行します。利用者は発行者から受け取った証明情報をそのまま金融機関やチケット販売会社（以下、検証者）に提示するのではなく、自ら検証者に提示する情報を選ぶことで、必要最小限の情報開示でプライバシーを守りながら、クレジットカード企業や銀行等における本人確認を完了することができます。（＝選択的開示）

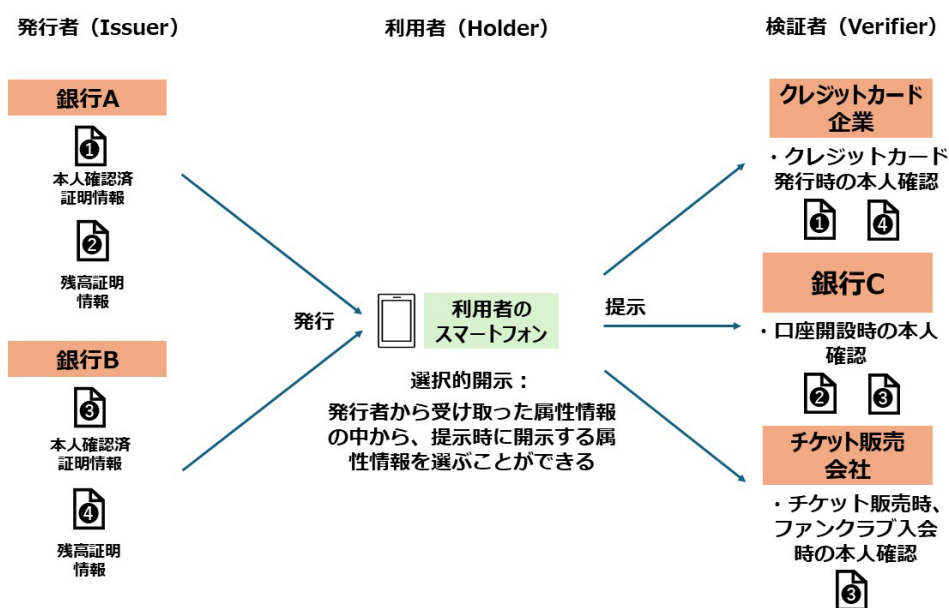


図 1：金融機関やチケット販売会社での本人確認の際に属性情報を提示するモデル

■ 属性証明のメリット

属性証明のメリットとして、一部例をご紹介します。

- ・プライバシー保護：提示する情報を選択できるため、例えば 20 歳以上であることの年齢確認の場面で、住所や本名、生年月日が記載された運転免許証を出すことなく、20 歳を超えている事実のみ提示ができる
- ・本人確認の自動化：人手を介した書類審査がなくなり、スマートフォンから 1 タップで即時審査・サービス利用が可能になる

属性証明によって、個人のプライバシーを守りながら、利便性の高い本人確認を実現することができます。今後、AI エージェントが人に代わって予約・購入・本人確認等を行う場面が広がることで、「誰が、どんな権限や属性を持っているか」をデジタル上で確実に実現できる属性証明の重要性は、ますます高まっています。